

## ～国際園芸博覧会の今後の進め方について～

2026（平成 38）年の国際園芸博覧会の開催を想定した場合、6年前の2020（平成 32）年には、国が開催申請（立候補）をする必要があります。このため、それまでに国が開催立候補を決定できるような開催構想の作成などを、横浜市として進める必要があります。

今後、基本的な考え方（素案）をもとに、地権者の皆様をはじめ市民・企業の皆様、関係機関、有識者等の御意見を伺いながら、国際園芸博覧会について検討していきます。

国際園芸博覧会のスケジュールイメージ（太字は横浜市が主体的に行うこと）

年度	想定される主な取組
2016	<b>花博招致検討（基本的な考え方の作成など）</b>
2017 ～ 2019	<b>検討組織の設置(予定)、花博構想(案)の作成、国へ花博招致の正式要請、AIPH(国際園芸家協会)に花博開催申請・承認</b>
2020	閣議了解⇒BIE(博覧会国際事務局)に花博開催申請・承認
2021	閣議決定⇒BIE(博覧会国際事務局)に登録、博覧会協会設立 会場計画・整備、参加招聘
2026	<b>国際園芸博覧会（花博）の開催</b>

国際園芸博覧会の検討が、旧上瀬谷通信施設の跡地利用の検討にも生かされるよ！



## 瀬谷区・旧上瀬谷通信施設ニュース（第2号）

平成 29 年 1 月発行

### 旧上瀬谷通信施設の跡地利用の検討を進めています！

旧上瀬谷通信施設は、横浜のみならず首都圏でも貴重な広大な土地(約 242ha)であり、その跡地利用については、横浜市郊外部の新たな活性化の拠点を目指しています。

現在は、地権者の皆様と農業振興や土地活用の具体化に向けた検討を進めています。引き続き、地権者の皆様と話し合いを行いながら、今後の検討の基礎となる「跡地利用ゾーン」を定め、更に、跡地利用基本計画の策定に向けて検討を進めます。

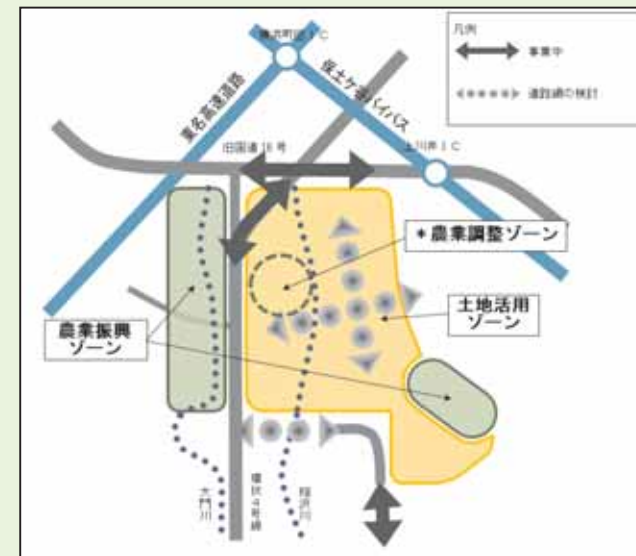
暫定利用については、国の調査の予定も踏まえながら、来年度の利用について調整を進めます。

#### 最近の主な経過

##### 1 上瀬谷地区及び上川井地区の農業専用地区協議会との取組

昨年6月から9月にかけて、地権者約 250 名との個別面談を行い、「跡地利用ゾーンの考え方（たたき台）」を説明し、ご意見を伺いました。

10月からは、地権者の方々と農業振興や土地活用についての勉強会を、継続して行っています。



##### 【跡地利用ゾーン(案)】

- ・ 国有地と民有地の混在を解消し、効果的・効率的な土地活用ができるよう、農業振興ゾーン、土地活用ゾーンから成る2つのまとまりあるゾーンの形成を目指します。
- ・ 農業振興ゾーンは、都市型農業推進のため、農業基盤整備等を積極的に進めます。（例：灌漑施設の整備、観光農園、市民農園等）
- ・ 土地活用ゾーンは、導入する機能・施設として防災、公園、道路を整備する方向で検討するほか、物流、教育・研究、交通、その他の施設については整備の必要性も含めて検討します。農業調整ゾーンは、現状まとまりのある農地であるため、土地利用の方向性について引き続き検討します。

##### 2 暫定利用の取組

国有地にある上瀬谷球場、米軍球場等は、公共的な利用を基本として運用を継続しています。同じく国有地にあるウド室については、利用期限が平成 29 年 6 月頃とされていることから、国有地外での試行的な施設の整備と試験的栽培の準備を、生産者とともに進めています。

海軍広場については、国による土壌調査、埋設物調査等の予定も踏まえながら、市民が米軍施設返還を実感できる象徴的な場所としての暫定的利用について検討を行っています。



### 旧上瀬谷通信施設の知名度アップと魅力創出に取り組んでいます！

#### ■瀬谷フェスティバルの開催

昨年10月に海軍広場において、区民の連帯感を深め、ふるさと意識の高揚を図るための瀬谷区最大のイベントとして「瀬谷フェスティバル」を開催し、約6万人の方に御来場いただきました。

【瀬谷フェスティバル】→  
天気にも恵まれ、多くの方に御来場いただきました。



#### ■全国都市緑化よこはまフェアと連携した「花畑」づくり

平成 29 年春に開催される「全国都市緑化よこはまフェア」の瀬谷区における取組として、海軍広場を活用し、ポピーやネモフィラなどのワイルドフラワーの花畑を作っています。3月下旬の開花に合わせて、広場を開放し、区民を始め、多くの方に楽しんでいただく予定です。

【ワイルドフラワーの花畑】→  
種の植付けが終わりました。春が楽しみです。



平成 29 年 1 月発行 旧上瀬谷通信施設で検索

【編集・発行】横浜市瀬谷区役所区政推進課 〒246-0021 横浜市瀬谷区二ツ橋町 190

TEL 045-367-5631 FAX 045-365-1170 E-mail [se-kusei@city.yokohama.jp](mailto:se-kusei@city.yokohama.jp)

●このパンフレットは、区役所・地区センター・図書館・区内駅PRボックスで配布しています。  
(なくなり次第、配布終了になります。)

●<http://www.city.yokohama.lg.jp/seya/matizukuri/kamiseya>でもご覧いただけます。



# 国際園芸博覧会の招致を検討しています！

横浜市では、跡地利用に対して国の積極的な支援を得るため、国有地を中心とした国際園芸博覧会の開催検討への支援・協力について、提案・要望を行っています。

国際園芸博覧会の開催は、跡地利用促進の具体化に重要な取組であり、地域の知名度向上につながるとともに、横浜を世界に向けて大きくアピールすることにもなると考えています。

## ～国際園芸博覧会とは～

■国際園芸博覧会は、国際的な園芸・造園産業の振興及び花と緑のあふれる暮らしや地域の創造を目的に開催される国際博覧会です。

■国内では 1990 年に大阪で開催された「国際花と緑の博覧会」が初めてで、開催理念である「自然と人間との共生」を全世界に発信し、環境を重視する都市づくり等の先導的役割を果たしました。

国際花と緑の博覧会（1990年大阪）の様子  
出典：国際花と緑の博覧会公式記録



横浜市が招致を検討している国際園芸博覧会は、国際園芸家協会（略称 A I P H）の承認のもと国が開催する A 1 区分の国際園芸博覧会です。この博覧会は、国際博覧会条約に基づいて、博覧会国際事務局（略称 B I E）の承認のもと開催する国際博覧会（認定博）でもあります。

A I P H 及び B I E の承認を受けるために、それぞれの規則に基づく計画策定が必要となります。

## 国際園芸博覧会の開催区分と概要

区分	A 1	B	C	D
開催期間	3か月～6か月間	3か月～6か月間	5日～20日	規程無し
最低面積	50ha	25ha	6,000㎡	規程無し
その他	会場面積の最低5%は常時国際展示に利用	会場面積の最低3%は国際展示に利用	会場面積の最低10%は国際展示に利用	出展者の60%は園芸関係者であること
	10カ国以上参加	10以上の国際団体参加	6以上の国際団体参加	園芸関係者が参加

園芸に関するコンペを開催する

国際博覧会（認定博）

※国際園芸博覧会の A I P H 規則に基づき作成

## ～国際園芸博覧会について横浜市の基本的な考え方（素案）を作成しました～

国に国際園芸博覧会の開催検討への支援と協力を求めるため、現時点での横浜市の基本的な考え方（素案）を作成しました。

### ◎開催意義（案）

【国内外】 未来への展望を示し、社会変革の契機としての国際園芸博覧会の開催

⇒未来の社会のモデルとなる「生活の『質』の向上を重視した社会の実現」

【横浜】 海外との花文化の交流窓口の歴史、環境施策を展開する横浜での開催

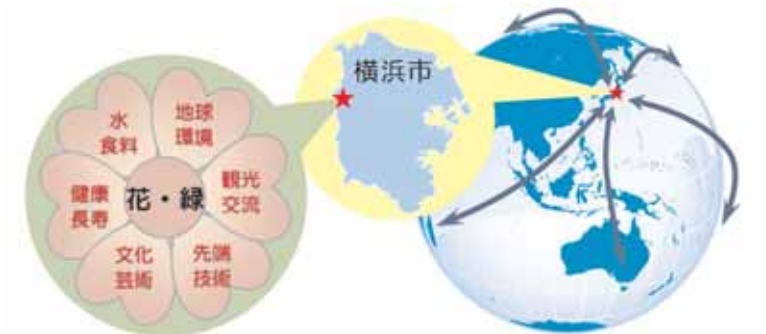
⇒全国都市緑化よこまフェアをステップとした「Garden City Yokohama に向けた都市づくり」

【地域】 戦後 70 年の返還地であり首都圏最大級の広大な空間での開催

⇒横浜市郊外部の活性化拠点としての「旧上瀬谷通信施設のまちづくりの起爆剤」

### ◎開催理念（案）

未来にむけて、花や緑を通して、地球規模の環境問題である温暖化や生物多様性、食料問題などの解決を促し、暮らしや健康・文化などの生活の「質」の向上の新たな提案を行う、時代の転換点となる国際園芸博覧会の開催



海外と日本の文化交流の窓口となった横浜から発信

### ◎開催の基本事項（想定）

開催区分	国際園芸博覧会（A 1）、国際博覧会
開催地	旧上瀬谷通信施設
開催年・期間	2026（平成 38）年 春から秋（6か月間）
入場者	1,000万人から1,500万人
会場	国有地を中心に80haから100ha程度

取組を進めるには、関わる人が話し合う考え方が必要だね。この「基本的な考え方（素案）」は、検討のために現時点での横浜市の考え方をまとめたもので、決めたことではないよ。

どうして 2026 年の開催を考えているの？

国際園芸博覧会は、0と5の付く年以外で、およそ3年に1回の頻度で行われているんだよ。2022年のオランダでの開催までが決定しており、直近の候補年が2026年なんだよ。